

令和3年11月30日



たかがみねこども園

街ではあちらこちらに、クリスマスイルミネーションが見られるようになりました。園の玄関ホールにもクリスマスツリーが飾られ、子どもたちは「サンタさんからプレゼントもらえるかな?!」「サンタさんに会いたい!」と心待ちにしています。

今月は、『京都鉄道博物館』『青少年科学センター』『京都水族館』に行ったり、子どもたちが楽しみにしているクリスマス会があります。

～ 12月の目標 ～

- ・戸外遊びを通して寒さに負けない丈夫な身体をつくる。
- ・年末年始に向け身の回りをきれいにし、新しい年を迎える準備をする。



繰り返し読み聞かせることの大切さ

自分で本を読めない幼児期のうちは、読み聞かせをしてあげましょう。どんなに忙しくても、読み聞かせをしている間は、子どもが親を独占できる時間です。幸せな読み聞かせの時間を経験した子どもは、必ず親になったときに、子どもに絵本を読み聞かせる大人に育つと言われてています。

絵本の読み聞かせでもっとも大切なことは、お子さま自身が得られる心の満足感です。繰り返すことで心の満足感を得て、さらに、この繰り返しのなかでいろいろなことを学んでいきます。

子どもは自分の好きな絵本を読んでもらうと、必ず「もう1回読んで」そして、もう1回読むと、また「もう1回読んで」と言います。小さい頃の本読みは、多読よりも1冊の本を何回も繰り返して読む『繰り返し読み』が大切です。大人は、読み聞かせのバリエーションを増やして多くの言葉を覚えてほしいと思うかもしれませんが、『繰り返し読み』は、同じ言葉を何度も頭に入れるので、語彙力や表現力が身につくことになり、子どもの脳にとって、とてもいい刺激になります。

園でも子どもたちからリクエストのあった絵本や同じ絵本を何度も読んだりしています。繰り返し読んでいると、子どもたちはストーリーの展開がよくわかっているので、ページをめくると、出てきたおばけに「キヤー!」と大興奮したり、言葉を言ってみたり…。馴染みのある展開におもしろさと安心さを感じたりしています。

何度も何度も同じ絵本を読み聞かせるのは、大変ですが、数年後にはとてもいい思い出になります。大きくなったお子さまに、「あなたはこの本が大好きで、何度も読んだよ」「このページになると、〇〇出てくるなどお話していたよ」と笑って教えてあげてください。

